

今年は何年。5Sで人間力を磨いて、更なる職場と職員のレベルアップを目指して羽ばたいていきましょう！

◇ 視察研修に行ってきました！

視察先① 伊那食品工業(株)様(長野県伊那市) H28. 10. 4(火)

「かんでんぱぱ」でお馴染みの伊那食品工業(株)では、社員始め関連企業、取引先、消費者の幸せを第一に、

社は「いい会社をつくりましょう～たくましくそしてやさしく～」を掲げ、ぶれない「年輪経営」を持続させる企業の基本理念が全社員に浸透していました。

組織として大切なのは、「5S」、「チームワーク」と「スキルアップ」。特に5Sは、「きれいな場所には人が集まる」ということで、社員は自発的にトイレ清掃(就業時間内外問わず)や早朝及び昼休み中の清掃、また、ウェス片手に通路の手すりを拭きながらの出勤と感心させられました。

5S推進のカギは職員のやる気！！



トイレの手洗いもいつもピカピカ！

当番制のクリーンリーダーが朝礼時に気がついた事を伝達するなど、「蜘蛛の巣だけは無いように！」と全社員で気配りしています。



朝の勤務時間前清掃活動の様子
道具は会社が全員分を用意

視察先② (株)ミクロ発條様(長野県諏訪市) H28. 10. 5(水)

精密小物バネメーカーの(株)ミクロ発條では、5Sに「セーフティー」を加えた6Sに取り組む歴史は、外から見られること(外圧)を常に意識しながら10年に及ぶそうですが、まだまだ道半ばとのこと。当初は、何のために取り組むのかを重点に話し合ったそうです。

改革では、まずは土台づくりとなる「他責構造からの脱却」と「あいさつと5Sで現場を磨き上げることを徹底したとのこと。

具体的には、使っていない物に赤札を貼る2S「あかふだ」運動を実施。特に、評価者と被評価者との到達点を一致させるための擦り合わせには時間をかけたそうです。

様々な取組が実を結び、2007年には視察来社数が大手企業も含めて211社に登り、まさに「現場を見せることが最高の営業」の言葉どおりでした。



オフィス、工場共に6Sの工夫がなされており、書棚の整理状況は完璧で、床には余計な物は置きません。工場では、特殊技能を必要とする作業以外は、ほとんどオートメーション化されており、3定が徹底され、材料の置き方も清掃しやすいように底上げ台を活用していました。

また、床には青や赤のテープで人の導線や置き場所が明示されており、安全や物品管理の徹底がなされていました。



◇ 5S職員研修…その後

昨年8月に係長以上の職員を対象に5S職員研修を行いました。

その中で5S運動統括者の鈴木副市長や加藤顧問からは厳しい指摘をいただきました。研修の中で出された「即実践」すべき提言としては、

- ・ 管理職が率先垂範する
- ・ 朝礼及び終礼での周知啓発
- ・ 職員相互間の声かけ

などが提案されました。

そこで研修前と後の評価点1位(市役所内とその他施設)を見てみると、

評価月	評価点数優秀部署
6月(研修前)	政策秘書課(90%)・消防署(81%)
10月(研修後)	市民相談室・監査事務局・政策秘書課・消防署・保健センター(80%)
11月(研修後)	市民相談室・福祉施策課・消防署(80%)

消防署はその他施設で三連覇！安定して高評価なのはさすがです。

平均上がるも、習慣化に課題！！

全体では、研修後の評価率が平均で2ポイント上がったものの、まだまだ習慣化された状況とは言えず、今後も各部署、個人の取組に対する努力が必要です。

一人ひとりが本気で取組めば、難しい変革も可能である。